

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者[※]の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 肝切除術例における画像検査による非侵襲的肝線維化評価法の開発
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 放射線診断科 （研究責任者）岡田 真広
＜研究期間＞ 承認日 ～ 令和 11（西暦 2029）年 3月 31日
＜対象となる方＞ 西暦 2014 年 1 月 1 日 ～ 西暦 2024 年 2 月 29 日の期間に当院で肝切除術を受け、手術前に画像検査（CT、MRI、単純写真、核医学検査、超音波検査）を行われた方
＜研究の目的＞ 肝線維化（肝臓が固くなること）は、肝炎ウイルスの感染、アルコール、脂肪沈着などにより引き起こされます。肝線維化は肝硬変や癌のリスクが高まります。そのため肝線維化の進行度を知ることは治療、予後予測にとっても重要です。肝線維化を診断するには、肝生検（腹部に針を刺し、肝臓の一部を採る検査）が最も確実ですが、腹痛や出血、感染などの合併症が報告されています。そのため、肝線維化を予測するための非侵襲的な方法が求められています。例えば、血液検査や超音波、CT、MRI などの画像診断を活用する方法です。 この研究では、当院で肝切除術を受けた方の画像情報、血液検査情報を利用して、非侵襲的な肝線維化予測法の開発を目指しています。これにより患者さんの負担が減り、肝線維化の早期発見や適切な治療、治療効果のモニタリングが可能になります。さらに、今後の研究や臨床への応用も記載されています。
＜研究の方法＞ 当院で肝切除術を受ける前に撮影された画像情報、血液検査情報を解析し、その結果を手術後の組織検査結果と照らし合わせます。これにより、画像診断により肝線維化の進行状況を予測できるかどうかを調べます。患者の皆さんには追加の検査は必要ありません。

<研究に用いる試料・情報の項目>

血液検査、画像検査(CT、MRI、単純写真、超音波検査、核医学検査)、病理組織検査、診療記録

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

放射線診断科

氏名：岡田 真広

電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2553 (PHS) 8320

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方